

# ニュースレター

## ——新聞から拾う医界の周辺あれこれ——

<15. 3. 1~15. 3. 31>

3月4日

■富山医科薬科大は、内視鏡だけを使って肺腫瘍を除去する手術に成功。(道新)

3月7日

■日大薬科学部の手塚雅勝教授らは、体内時計を制御するたんぱく質として夜間に多く発現しているBMALが、他の細胞を脂肪細胞に分化させる働きを持つことを究明。(日刊工業)

3月10日

■赤ちゃんのへその緒にある臍帯血に含まれる細胞を取り出して、肝臓の細胞に成長させることに、東京医科歯科大の寺岡弘文教授のチームが世界で初めて成功。(読売)

■コーヒーをよく飲む人ほど血糖値が低く抑えられる傾向があることが、東大病院糖尿病代謝内科の五十川陽洋医師と朝日生命糖尿病研究所の野田光彦主任研究員らの調査で明らかに。

(毎日)

3月13日

■94歳の女性の骨髄細胞に、細胞の寿命を延ばす遺伝子を組み込み、心筋細胞に変化させることに国立成育医療センター(東京都)と慶応大医学部などのグループが成功。(読売)

■名古屋大医学部整形外科教室(石黒直樹教授)の骨再生医療グループは、骨再生術(誘導骨芽細胞移植術)で、低身長女性の身長を10センチ伸ばすことに国内で初めて成功。(読売)

■睡眠時無呼吸症候群(SAS)の患者が居眠り運転で交通事故を起こす確率は、患者でない人の2倍を上回ることが愛知医大睡眠医療センター(塩見利明部長)の調査で明らかに。(日経)

3月17日

■甘味料の原料や健康食品として知られる「甘茶」のエキスに、肝臓障害を抑える効果があることを、協和発酵の研究グループがラットを使った実験で明らかに。(毎日)

■脳卒中のリハビリ中に休日が多いと、退院時に自宅に復帰できる率が11ポイント低く、死亡率は3倍近い傾向が厚生労働省の研究班(長谷川泰弘国立循環器病センター医長)の調査で明らかに。(毎日)

■アルツハイマー病患者の脳から、この病気の原因とみられる物質を除去する手法が初めて発見。(読売・日経)

■妊婦が1分間の心拍数で150を超える運動をすると、胎児の心拍数に増加や減少の異常が起きるケースがあることを、愛知医科大産婦人科の浅井光興・助教授らが確認。(道新)

3月24日

■世界保健機関(WHO)は、正体不明の肺炎「重症急性呼吸器症候群」(SARS)について、香港大学の研究チームが原因ウイルスを特定し、感染の有無を見分ける検査法の開発に成功。(読売)

3月28日

■人間の精子に、においをかぎ分ける能力があることを米・独の研究者が究明。(読売)

3月31日

■赤血球、白血球、リンパ球などによる造血幹細胞の働きを保つ遺伝子を、上野博夫・国立がんセンター研究所室長らが発見。(毎日)